

平成 22 年度 第 3 回被服学教育 FD/ICT 活用研究委員会 議事概要

- I. 日時 : 平成 22 年 12 月 25 日 (月) 13 時 00 分から 15 時 00 分まで
- II. 場所 : 私立大学情報教育協会事務局会議室
- III. 出席者: 高部啓子委員、阿部栄子委員、伊佐治せつこ委員、山口恵子委員、
田中早苗委員、軽部幸恵委員
(事務局) 井端事務局長、森下幹事、松本職員
- IV. 議事概要

1. 学士力実現に必要な ICT 活用の授業モデル案のまとめ

前回の委員会で決定した授業モデル 2 案について ICT の活用などさらに詳細かつ具体的な内容をまとめる

①『ブランド企画について』到達目標 3 - ③、4 - ③

素材特性、衣服製作、マーケティングの知識、技術はある程度習得している学生に対して展開する授業。ターゲットやニーズ、コンセプトを明確にしたブランドを企画する。コンセプトを明確に示して衣服のデザイン性を高めていき、それを発表する。具体的な方法として、受講生全員にコンセプトとデザイン画を描かせ、その中から優れたものに絞る。絞られたデザイン画について、3 人程度のグループによるグループワークを行う。素材の研究、立体構成、検証を行い、最終的なデザイン画をボードに示してプレゼンテーションを行う。その過程は全てポートフォリオの形でファイリングする。イラストレーター、フォトショップなどを使用。グループワークにより、自分のデザインに固執するだけでなく、他人の意見を取り入れていくことで、自分の作品を制作過程も含めてきちんと説明できるようにする。考える力を養う。考え方がわかるようにする。

②『素材とパターンについて』到達目標 3 - ①、3 - ②

材料特性の基本的な実験方法やデータ解析方の法を学んだ 2 年生以上の学生に対して展開する授業。被服材料の特性を生かしたアパレルの設計ができることがねらい。多数の素材特性のうち被服を構成するのに必要なものは何かを考える。スカートをテーマに、基本的な素材の布数種を用いて、同パターン、同サイズのスカートを作った場合に、素材によって形態が変化することなどを実験を通して体験させる。授業を通して布の性質と形との関わりを理解する。例えばサーキュラースカートを作って、ド

レープ性を比較する。被服素材の特性によるシルエットの変化などを学生が実験を通して体験的に身につける。

2. 今後の検討スケジュールについて

本日の議論の結果を文章化し、A4用紙2ページ程度にまとめる。
体裁を整え、次回4回目を「中間まとめ」として、インターネットで公開して意見を頂き、来年度1回目にその意見を反映させて「中間まとめ」を確定させる。

V. 次回の開催日程

日時：平成23年3月9日（水）13時から15時

場所：私立大学情報教育協会事務局会議室

以上